

防コミの歩き方



小・中学生と地域協働の防災訓練

須磨区の大黒地区では、毎年地域の小学生・中学生と高齢者を中心とした地域住民との連携した訓練を実施しています。これは、昼間地域に居るのは子どもたちと高齢者がほとんどで、もし昼間に地震等の災害が発生すればこれら地域に居る者が協働で助け合い、被害を最小にとどめなければならないからです。

今年は、妙法寺川公園にて太田中学校吹奏学部と神戸市消防音楽隊との合同演奏披露の後、次の5つの訓練エリアを設け各種訓練をおこないました。

- ・ 地元のあんしんすこやかセンター職員の指導の下、車椅子の取り扱い訓練
- ・ 防コミ指導の下、簡易担架搬送訓練
- ・ 須磨消防署指導の下、三角巾取り扱い訓練
- ・ 須磨消防団第2分団指導の下、妙法寺川を水源とした小型動力ポンプによる放水訓練とバケツリレー
- ・ 常盤大学学生と地元婦人による災害用炊飯袋を使った炊き出し訓練



特に今年新しく挑戦した訓練として、災害用炊飯袋による炊き出し訓練です。

少し説明しますと、通常は大釜などに洗米と水を入れて炊飯し、出来上がったご飯をおにぎりにしたり皿や容器で配膳します。

これに対し、炊飯袋による炊き出しは、炊飯袋に印刷された線まで洗米1合と水を入れて輪ゴムで上部を固く縛ります。

次に釜で沸騰した湯の中に入れ30分ほど煮て外に出して5～10分蒸らせば出来上がりです。特徴としては、おにぎりを握る手間が不要で衛生的です。釜も汚れないので洗う手間が省けます。さらに配る時も便利で、箸や食器がなくても食べることができます。



みんな初めての体験でお米と水を1つずつ袋に入れゴムで縛り…不慣れながらもなんとか250人分を作り豚汁とあわせて訓練終了後に参加者に配りました。中には少し芯があったりベチャ軟なご飯もありましたが、炊き出し者の苦労を考えれば誰も文句は言えません! 今回の防災訓練も、防災福祉コミュニティ関係者の「震災体験を風化させたくない」「子ども・高齢者・消防団等、地域住民協働の防災活動を」との強い想いでおこなわれた訓練でした。(須磨消防署 甲斐康之)

